

**今月の  
ひとこと**

お金はなぜ大切かといえば、お金で欲しい物やサービスを得ることができるからです。欲しい物やサービスが得られればうれしい。つまり、お金は幸福感を与えてくれたことに対する代償です。お金そのものに価値があるのではなく、本来、お金で得られる幸福感に価値があるのです。色々な機会にそのようなお話をしてきたのですが、今回の特集1、渋沢さんの講演で渋沢さんも同じ思い、考え方を持っているのだとうれしくなりました。お金⇒物・サービス⇒幸福感というルートが普通ですが、お金⇒幸福感というお金の使い方もあります。世の中のためになるお金の使い方、世の中の困っている人に手を差し伸べてあげるお金の使い方、私はこれらを「超マネー投資」と呼んでいます、これからとても必要な「金遣いの王道」なのではないかと思えます。

FACEBOOK上でクラブ・インベストライフの仲間が活発な議論をしています。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。(2014年4月14日現在で参加者数はちょうど2125名です。)

**誌上ライブ講演会 「論語と算盤から学ぶ企業フィランソロピー」**

国際交流センター理事長、コモンズ投信株式会社会長 渋沢 健

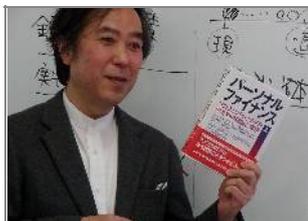


昨年の夏にコモンズ投信では「愛と資本主義」というかなり無茶苦茶な(?)テーマのセミナーを開催しました。その時、ふと思いついて「愛と恋の違いは何でしょうね」と問題提起してみました。トークセッションに参加していただいた森美術館の南條史生館長がある哲学者の言葉を引用して次のように教えてくださいました。「お互いを見つめ合うのが恋である。一方、愛というのは同じ方向を見るということだ」とおっしゃいました。私はそのお話を聞いて、日ごろ、思っていたことがすごくストンと心に落ちたんですね。

[読んでみる](#)

**統合ポートフォリオ管理の手法と資本ニーズ分析**

講演: 伊藤 宏一 レポーター: 川元 由喜子



ちょっと見たところ難しそうタイトルですが、個人が自分の生活設計に基づいて資産運用をしていく上で大変有効な考え方で、日本では欠けている部分でもあります。これについて、アメリカで「パーソナル・ファイナンス」(アルトフェスト著)という良い本が出たので、この度、翻訳しました。お金だけではなく、それも含めて人生を豊かにしていくためにどうしたらいいか、という視点で書いてある、非常に珍しい本です。

[読んでみる](#)

**金融資産、人的資産を考える**

対談: 伊藤 宏一 vs. 岡本 和久

日本では、投資の世界を特殊なものだと考えています。イギリスでは2000年に出来た金融サービス市場法の中に、保険・貯蓄・運用・ローンも全て包括的に入れています。そして、そのサービスを受ける人を、消費者であるとしていますが、投資家という言葉は入っていません。つまり消費者は、投資もするし、保険も買い、貯蓄もしてローンもするというように、普通のことの中に投資も入るわけです。ところが日本の場合は、金融商品取引法があり、金融商品取引法は、証券取引法からきていますから、その金融商品という言葉がイコール証券です。

[読んでみる](#)

**クラブ・インベストライフとは?**

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

**<FACEBOOK、TWITTERへの投稿の際のお願い>**

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告のご遠慮ください

**I-Oウェルス・アドバイザーズのメール・マガジン**

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

[mag@i-owa.com](mailto:mag@i-owa.com)

毎月15日配信 無料

**Facebook**

Facebook上のグループ、クラブインベストライフ  
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要で  
 す。リクエストボタンを押して  
 入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

Twitter上のグループ  
 クラブインベストライフ  
[http://twitter.com/c\\_investlife](http://twitter.com/c_investlife)

Twitterへの登録が必要です

 @c\_investlifeさんをフォロー

## 中国がわかるシリーズ19 再統一への動き（前）

ライフネット生命株式会社 代表取締役会長兼CEO、出口治明

【北】魏では、孝文帝の跡を継いだ宣武帝（499～515）の時代に、首都、洛陽が繁栄を極めました。1万戸を超える外国人が住み着き、宣武帝の霊皇后が創建した永寧寺のあまりの神々しさに、海路、南インドからやってきた仏僧、菩提達磨（少林寺に入り、面壁座禅をして、中国の禪祖となった人です。わが国では、「だるまさん」として知られています）は、幾日も合掌を続けたと伝えられています。しかし、急速な漢化政策から疎外された遊牧民の不満は高まりつつあったのです。

[読んでみる](#)

### インベストライフ応援団のブログ

あいうえお順、敬称略

[紹介一覧はこちら](#)

#### 伊藤宏一の「近現代日本と貯蓄」―貯蓄は美德なのか―

伊藤 宏一

#### 実践コーポレートガバナンス研究会・ブログ

門多 丈

#### 会長 澤上篤人のレポート

澤上 篤人

#### 真マネー原理

滝沢 伯文

#### 一日一言ブログ

竹田 和平

#### 積立王子のブログ

中野 晴啓

#### SRIのすすめ 未来の測り方

速水 禎

#### 馬淵治好の凸凹珍道中

馬淵 治好

#### 右脳インタビュー

片岡 秀太郎

#### 鎌田泰幸のブログ

鎌田 泰幸

#### 世代を超える想いの滴

渋谷 健

#### About Money, Today

竹川 美奈子

#### 出口治明の提言：日本の優先順位

出口 治明

#### CFA流「さんない」投資塾

日本CFA協会

#### 毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！

尾藤 峰男

#### 森本紀行はこう見る

森本 紀行

### 参考データ・コーナー

#### 基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

日本株・外国株・日本債券・外国債券という四資産均等配分型のモデル・ポートフォリオのパフォーマンスに比べて、全世界の株式・全世界の債券に均等配分する二資産型のパフォーマンスが高いのが目立ちます。

[読んでみる](#)

#### 投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

今回は純資産上位20ファンドを対象にパフォーマンスを分析していただきました。

[読んでみる](#)

### I-OWAたより

#### I-OWAマンスリー・セミナー ゼロ歳からの経済学

講演：岡本 和久 レポーター：川元 由喜子

#### 岡本和久のI-OWA日記

★富士でセミナーをさせていただきました ★日本フィランソロピー協会の会報誌に私の基調講演の記事が掲載されました ★週刊新潮に私の感想についても記事ができました ★「寄付の教科書」が完成！ ★中学三年生の感想文 ★資

### バックナンバー

2012年12月までに発行されたインベストライフをご購入いただけます。



[購入・詳細](#)

- [2014年03月17日発行 Vol.135](#)
- [2014年02月17日発行 Vol.134](#)
- [2014年01月15日発行 Vol.133](#)
- [2013年12月16日発行 Vol.132](#)
- [2013年11月15日発行 Vol.131](#)
- [2013年10月15日発行 Vol.130](#)
- [2013年09月15日発行 Vol.129](#)



経済学の基本中の基本は、世の中には皆が欲しいものを満足させられるだけの十分な資源が無い、言い換えれば、資源に希少性があるということです。経済学が「希少性の学問」といわれる所以です。希少性があるがゆえに、「トレードオフ」の関係が生じ、それが恒常的であるため、人生は選択の連続となるのです。あっちもこっちも取るということとはできないわけです。当然、諦めた方は、選択していれば得られるはずだったものが得られなくなるので、そこに機会費用が発生します。

[読んでみる](#)

## 新連載！資産運用「茶飲み話」(1)

### 岡本 和久

早いもので証券界に入って43年になりました。オイルショック、貿易摩擦、ブラザ合意、80年代のバブル膨張と崩壊、ITバブルと暴落、サブプライム問題、ユーロ問題、世界的な金融危機、まあ、色々とありましたね。でも何とか生き延びてくることができました。そんな私の茶飲み話、聞いてやってください。

[読んでみる](#)

産運用「気づきのタネ」(115) 投資、本音と現実 ★資産運用「気づきのタネ」(114) 人生は積立投資 ★BBT大学で講演させていただきました ★出張授業花盛りでした ★3月16日、I-OWAマンスリー・セミナー開催しました

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

### セミナー案内

マンスリー・セミナーは、個人投資家の方が、ゆたかでしあわせな人生をおくるために必要なおカネの知識を体系的に学んでいただくためのセミナーです。資産運用の理論と実践法をわかりやすく解説します。また、毎回、ゲストをお招きし、さまざまな分野の講義もしていただきます。次回は2014年4月20日(日)、その次は5/18(日)、ともに12:30~16:30@東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス)で開催です。(完全予約制)

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

Page Top



## 誌上ライブ講演会

### 「論語と算盤から学ぶ企業フィランソロピー」

国際交流センター理事長、  
コモンズ投信株式会社会長  
渋沢 健

1987年 UCLA 大学 MBA 経営大学院卒。1987年、ファーストポストン証券会社(ニューヨーク)入社。JP モルガン銀行(東京)、JP モルガン証券(東京)、ゴールドマン・サックス証券会社(東京)、ムーア・キャピタル・マネジメント(ニューヨーク)を経て、2001年にシブサワ・アンド・カンパニーを創業、2008年にコモンズ投信設立、会長に就任。2012年から2014年3月まで公益財団法人日本国際交流センター理事長を務める。主な著書に『30歳からはじめる お金の育て方入門』(同文館出版 2013年)、『渋沢栄一 明日を生きる 100の言葉』(日本経済新聞出版社・2013年)など多数。本講演は2014年2月27日、公益社団法人 日本フィランソロピー協会主催の企業フィランソロピー大賞贈呈式における特別講演を I-O ウェルス・アドバイザーズが渋沢氏、日本フィランソロピー協会の許可を得て文章にしたものです。

みなさん、こんにちは。ただいま紹介いただきましたコモンズ投信の会長の渋沢健です。今日は「論語と算盤」というテーマで私の持論などをお話したいと思います。

フィランソロピーという言葉ですが、フィルというのは古代ギリシャ語で愛のことです。アンソロピーは人類のことですから人類愛、それがフィランソロピーという言葉の語源です。昨年の夏にコモンズ投信ではセミナーを企画しました。それは「愛と資本主義」というかなり無茶苦茶な(?)テ





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

一マのセミナーだったのですが、その時のトークセッションでふと思いついて「愛と恋の違いはなんでしょうね」と問題提起してみました。英語では愛も恋も LOVE なんですね。トークセッションに参加していただいた森美術館の南條史生館長が、ある哲学者の言葉を引用して次のように答えてくださいました。「お互いを見つめ合うのが恋である。一方、愛というのは同じ方向を見るということだ」とおっしゃいました。私はそのお話を聞いて、日ごろ、思っていたことがすごくストンと心に落ちたんですね。通常、愛と資本主義はまったく別の次元のものとしてとらえられています。むしろ、資本主義などは悪者の世界であると思われる節もある。しかし、資本主義とは現在から未来へという同じ方向を見て資本が集まることです。そして、愛も、お互いに未来の方向を見ているということもありますね。共にこれから未来に向けて目を向けているということで、愛と資本主義に通じるところがあるのではないかと考えています。

私自身これまで勤めてきた会社は結構、カタカナの会社が多かったのです。20代、30代のころは売った、買ったのトレーディングの仕事をしていました。その私にウェイクアップ・コール、つまり、目覚まし時計が自分の体の中で鳴った瞬間があったのです。それがこの写真の時だったのです。

これはアメリカ西海岸のシアトルでの写真です。シアトルといえばイチローなどを思い出すかたも多いでしょう。あるいは、アマゾンとかマイクロソフトなどのベンチャー企業も多いところなのです。

アメリカ人はシアトルというと非常に雨がが多いところというイメージを持っています。シアトルの人にそう言うと、いや、それはわざと雨を降らしているのだと言います。それは人口抑制、ポピュレーション・コントロールだということです。なぜなら、こんなに美しい所でいつも天気良かったら、たくさんの人が来てしまう。だから雨がなくてちょうどいいのだという訳です。まあ、それぐらい本当に雨の多い所です。

この写真の日をご覧のとおり素晴らしい青空の晴天でした。しかし、私の心の中は結構、重い雲がかかっていました。なぜならこの日は2001年9月11日の朝だったのです。この日、私はシアトルからワシントン DC に飛ぶ予定でした。しかし、当然、飛行機は全然飛ばない状態でした。それでシアトルに足止めとなったのです。



私はこの青空をみてこんなことを思っていました。私はこの半年前に独立したばかりでした。長男が生まれたばかりで次男が妻のお腹にいた。それまで、私がいた世界の常識は電話一本で何十億円、何百億円の資金が動く世界でした。たった数分で、何千億円だって動かした時もあります。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

そのようなことを常識だと思っていた私という人間がこの青空を見て、飛行機が飛んでいない、人も物も動かない、では、これからどうやって自分や家族を養っていけば良いのだろう、そのような危機感をその時に覚えたのです。

この青空を見た時に私が思ったことは、ああ、戦争というのはこんなにきれいな青空から始まるのだなあということでした。そんな気持ちになったのです。平和というのは空気のようなものだ、あるのが当たり前だが、それが失われた瞬間に死活問題になる。そのようなことを瞬間的に感じたのです。この日は全然、予定がなくなりました。たしかラジオだったと思いますが、シアトル市民に「インターナショナル・ファウンテンに集まりましょう」という呼びかけがあったのです。そのインターナショナル・ファウンテンって一体何だろうと思って調べて、行ってみたらこの写真のようなところでした。

この真ん中がファウンテン、つまり、噴水なのですが、このようにたくさんの人々が集まっていました。別に何かスピーチがあるわけではない。ただ、人が集まってきていたのです。なぜ、人が集まるのか……。アメリカですからよく見ていただくとわかるのですが色々な人種の人があります。ちょっと見にくいですが頭にターバンを巻いている人もいます。5~6人の中東系の男性でした。そのときのアメリカ市民から見れば、中東は「敵」だったのです。しかし、彼らは花を持ってきてこの噴水のところに捧げたのです。その時に何が起こったかということ、みんなが大きな拍手をしたのです。見ていた私も感動して涙が浮かんできました。そのような出来事があったのです。

なぜ、ここに人が集まったのだろうか。私が思ったのは、ひとつは「共感」があったということ。何に対する共感かと言えば、ほんの何時間か前に尊い命を落とした魂に祈りをささげるということです。そして、もうひとつ、みんな、答えを求めていたと思うのです。その答えというのは、これからの自分の人生はどうなるのかということです。自分の生活、自分の子供、兄弟、同僚、仲間、みんなどうなってしまうのだろうか。誰もこの瞬間は答えを持っていなかった。何にみんなが共感したかということ、これからの未来に向けての持続性なのですね。サステナビリティに対してみんなが答えを求めていた。だからここに集まったのではないか。そう思っています。

散らばった存在が寄り集まるためには共感が必要だということです。この場合の共感自分たちの未来に対する持続性だったのだろうと思います。これが私にとってのウェイクアップ・コール、ターニング・ポイントだったのです。それは先ほど、平和は空気のようなものだと言いましたが、平和というのは自然現象ではなく、一人一人が意識をして作ってゆかなければ維持ができないもので、そこに市民社会というもののベースがあるのではないかと思ったのです。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

さて、話は変わります。東京都中央区日本橋兜町 4-3、ここに何があるか、みなさん、ご存じでしょうか。兜町ですから東京証券取引所だと思われるかも知れません。東証から 100 歩ぐらい歩いたところなんですね。どこにでもありそうなビルですが角にプレートが埋め込んであります。プレートには「銀行発祥の地」とあります。同じこの地で 140 年前に第一国立銀行が私の祖父の祖父にあたる渋沢栄一により創立されたのです。「国立」という名前がついていますが、これは 100%民間が出資した銀行です。なぜ、国立なのかというと、初めて日本の法律で定められた銀行だったからです。



我々は銀行と聞けばそれがどのような社会的な存在なのかすぐにわかります。しかし、当時は銀行が存在していませんでした。銀行という言葉も造語でした。設立の 1873 年当時、銀行というのはベンチャービジネスだったのです。当時の日本に銀行というベンチャービジネスの社会的存在感を伝えるために渋沢栄一はこのような例えを使っています。「銀行は大きな河のようなものだ。銀行に集まってこない金は、溝に溜まっている水やポタポタ垂れている滴と変わらない。折角人を利し、国を富ませる能力があってもその効果はあらわれない」ということを言っています。

つまり、お金は資源なのですがその資源が小さく溜まって、散らばっているだけでは力にならない。資金が銀行に寄り集まってくれば、それは日本の未来発展という大河のような原動力になる。そのような考え方を持っていたのです。そう考えますと先ほど、最初にご紹介した共感で市民が寄り集まったインターナショナル・ファウンテンの写真と、銀行という存在の原点はあまり変わらないと思うのです。

つまり、お金は資源なのですがその資源が小さく溜まって、散らばっているだけでは力にならない。資金が銀行に寄り集まってくれば、それは日本の未来発展という大河のような原動力になる。そのような考え方を持っていたのです。そう考えますと先ほど、最初にご紹介した共感で市民が寄り集まったインターナショナル・ファウンテンの写真と、銀行という存在の原点はあまり変わらないと思うのです。

当然、今日、我々が銀行にお金を預けるのは安心、安全を求めるといふ共感です。あるいは、ファンドに投資するのは儲けたいという共感があるのかも知れません。やはり共感ということがないと、散らかった存在が集まらないのではないかと思うのです。

リーマンショック以降、資本主義が悪者にされました。ファンド資本主義とか、グローバル資本主義とかが悪とみなされていたのですが、本来、我が国の資本主義の原点にある考え方は渋沢栄一が言っていることにあると思うのです。つまり、散らばった資源が寄り集まって、同じ方向を向いて未来に向かっての大きな大河になる。そのような考えではなかったかと思うのです。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

渋沢栄一は論語と算盤を提唱しました。論語は道徳、算盤は経済ですね。これを今の言葉で表現するにはどのようなものが良いのか。考えてみたところ幾つかヒントがありました。論語と算盤は書籍になっているのですが、そのなかに合理的経営という章があります。その中で渋沢栄一はこんなことを言っています。「その経営者一人がいかに大富豪になっても、そのために社会の多数が貧困に陥るようではその幸福が継続されない」、つまり、一人勝ちしたとしても短期的にはいいかもしれないが、それだけに固執しているとその幸せは長続きしないかも知れない。継続しないと警告しているのです。

別のところでは「正しい道理の富でなければその富は完全に永続することができない、従って、論語と算盤という懸け離れたものを一致させる事が今日のきわめて大切な務めである」と言っています。つまり、道徳と経済は一致すべきだというわけです。今の言葉で論語と算盤が何を意味するかと言うと、先ほどご紹介した持続性、サステナビリティではないかと思うのです。当然ながら算盤勘定ができないと持続性はありません。しかし、算盤勘定だけだと足元をすくわれてしまうかもしれない。

一方、論語を読みだすとお金儲けなど卑しいという価値観を持つ人もいます。それはそれで結構かもしれませんが、それだけだと何も始まらないのです。この論語と算盤の中で一番、重要な言葉というのは論語と算盤の真ん中にある「と」だと思います。「か」ではなく、論語「と」算盤。渋沢栄一の言葉を色々読んでみると、論語のために算盤を犠牲にしるとはどこにも書いていない。逆に算盤を高めないといけなうと言っている。なぜ、高めないといけなうかという自分だけではなく、商業人の存在感を高める、日本の国力を高めるためということを考えている。そのためには道徳も大切だし、さらに算盤も高めることが必要である。つまり、論語と算盤というのは経営の本というよりはむしろ、国家論に近いのではないかという印象を私は持っています。論語も算盤も車の両輪というイメージです。片方が大きくて片方が小さいと、車は同じところをぐるぐる回ってしまう。両方とも同じサイズであることによって未来に向かって前進できる。そのような考えではないかと思います。



さて、ここはどこでしょう。ジュラシック・パークみたいですが……。実はここはミャンマーです。ヤンゴンから高速道路を車で2時間半ぐらい北に向かって走ってそのベースキャンプからまた30分ぐらい奥地に入るとこのようなジャングルです。そこから歩き始めました。ちょうど雨季で車を降りた途端にどしゃぶりになり、この道が結構、坂道だったのですが、それが川のようになったのです。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

20～30分ぐらい歩いて行ったらこのような建物の集落につきました。このような所で住んでいるのです。なぜ、ここに行ったかと言うと、これはマラリア支援プロジェクトの視察でした。ここは実はマラリア地域だったのです。このように窓を閉めることもできない家で、夜になると蚊がブンブン飛んでくる。そういうところで暮らしているんですね。



で、この若者たちは何をしていますかと言うとボランティアなんです。この地域には集落が700ぐらいあるらしいのです。この若者たちが途中までは車で送ってもらうようですが、そのあとは徒歩で集落へ行き、マラリアに感染していないかをチェックし、もし、感染していたらそこで治療をする。薬を飲んでいるかを確認する。そのような活動をしているのです。



なぜ、ここに行ったかと言うと、実はこれをサポートしているのがグローバル・ファンド(世界基金)という国際的な基金です。実は世界基金はマラリア、エイズ、結核という三大感染症によって発展が抑制される途上国において、疾患を撲滅はできなくても、せめてコントロールすることによって開発を支援することが先進国の責任であるということで動いている世界的な基金です。



実はこの基金の生みの親が日本だと言われていています。おそらく皆さん、ご存じないと思います。2000年の沖縄サミットで日本政府が提言したのがこの三大感染症を先進国の責任でコントロールしようということを提言して世界基金ができたのです。ほとんど99%の資金は政府が出しています。我々の税金を使っている



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

わけで、その資金が実際にどのように使われているかを国会議員の目で実際に見ていただくという視察だったのです。

先進国ではエイズは薬さえもらえばちゃんと普通の生活ができるぐらいまでコントロールできる病気になっていますが、高価な薬なので途上国では手に入らないのです。そこで世界基金がお金をだして運営ができています。そのような活動です。

ミャンマーは軍事政権で、ゲイやエイズの人、セックス・ワーカーたちは社会から疎外して存在しないことになってしまう。そのようなことから、逆に感染症が広まってしまう。そこで彼ら・彼女たちに憩いの場を提供して、集まったらきちんとした感染防止の教育をする。そのようなこともしているのです。

なぜ、これをご紹介したかと言うと、ここに重要なメッセージがあると思うのです。つまり、遠い国で我々の今の生活と関係ない人たちですよ。でもそのために動くというのは「我がコト感」だと思うのです。遠い世界とか、自分とは関係ないかもしれない、今ではなく未来かもしれない。しかし、今の自分のためと同じように動くということ、「我がコト感」というのが大切なのではないかと私は思います。



例えばこういうのはどうでしょう。上の白黒写真は1965年。真ん中にいる子供は私です。そして下は現在の我が家です。私は子供が3人いますが、当時と今では見た感じは全然違います。しかし、親の私が子どもだった時代と、今の時代で変わらないこともあると思っています。私は親から期待と希望を受け継ぎました。それは、健康に育ててほしい、躰もちゃんと守って、勉強もほ



どほどして、それなりの大学に進んで良い仕事をして、いずれいい人と巡り合って、そして幸せな平和な生活をしてほしい。まあ平凡な期待、希望なんですけれど、自分は自分の子供たちに全く同じ期待と希望を持っているんですね。これは私が思うにはすごく大切な、大切な信念だと思っています。今日よりも良い明日になってほしい。前の世代から次の世代へ、今日よりも良い明日になってほしい。これは日本人であろうが、アメリカ人であろうが、ミャンマー人であろうが同じだと



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

思うのですね。この気持ち、今日よりも明日は良くなって欲しい、それが実は大切な使命感なんだけれど、そのような思いはいろいろなところで一滴、一滴、ポタポタと垂れ流し状態になっているのが現在、今の世の中ではないかと思うのです。だから、それらを寄せ集めることができれば、そこで共感資本ですね、共感資本になるのではないかと思い、コモンズ投信という会社を立ち上げました。コモンズ投信は30年投資ということを行っています、これは30年持ち続けるということではありません。次の世代を越えられる投資って何なんだろうと考えると、今の現役世代の我々、20代、30代、40代、50代が将来がより良くなってほしいという思いを込めて毎月コツコツ積み立てる。これを日本全国から集めると、非常に大きな長期資本になる。そのようなことが共感資本であると考えています。今日は投資セミナーではないので話が長くなって申し訳ないのですが、そのようなことを考えています(笑)。

もう一つの試みとして、実はコモンズ SEEDCap という社会起業家応援プログラムを設けています。これは、コモンズ投信に投資をしていただいている方々から頂戴している信託報酬 1.15%の中から、さらに1%を今日よりも良い明日を築くことに取り組んでいる社会起業家を応援する寄付プログラムです。毎年10月にコモンズ社会起業家フォーラムというのも開催していて、今までこの分野の第一人者の方々に登壇していただきました。このメンバーから毎年、一名を選考して応援する。そんな仕組みです。実は、去年の年末に「ザ・2020 ビジョン」という新しいファンドも立ち上げましたが、こちらの方からの信託報酬の1%相当はパラリンピック関連に寄付することになっています。

なぜ我々のような運用機関がこういうことをしていると「CSR」と思われるかもしれません。しかし、私はCSRという言葉は使っていません。私は金融機関の社会的な存在は3つあると思っています。ひとつは一般家計から経済活動している企業へ長期資本を循環させ、その収益の一部を家計に還元する、このような横の循環です。もう一つ、特に今の時代に重要な循環というのは、縦の循環だと思っています。つまり、日本は60歳以上の方々が6割以上の金融資産を持っているのですが、親の世代から、それを次の世代、縦の循環をするということも大切であり、それをお手伝いするのも我々の存在意義だと思っています。そして三つ目は営利から非営利だと思っています。寄付行為なのですがCSRと我々は呼んでいないのは、私から見ると寄付というのは超長期投資なんですね。投資というのはお金を出資して、それが自分のところに戻ってくるというのが、普通の考え方ですが、寄付というのは、自分には直接還元されない。しかし、自分の子供とか孫の世代のために、今日よりも良い明日を残すための活動への出資、つまり、投資なんですね。

寄付文化ということをよく言いますが、日本で寄付が文化になっていますか？あるいは長期投資が文化になっていますか？たぶんノーという返事になると思います。文化というと、生活の一環として、あまり考えなくても意識しなくても自然に行動するのが文化だと思うので、まだ寄付とか長期投資は文化になっていないと思っています。つまり、何故かと言うと、ひとつはいわば、これらは西欧的な価値観があるからという事かも知れません。確かに神が一人いて人間の行動を見る。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

今のこの世の中で、良い行い、悪い行いをすべて神は見ている。それで神は判断をするわけですね。そして天国に行くか地獄に行くかが決まる。結構、因果関係と時間軸がはっきりしている。それらは西欧的な宗教の根底にある様な気がします。

一方、日本的にはや八百万の神じゃないですか。我々は神社に行って何をするかというと、ガラガラと鐘を鳴らす。そしてぼんぼんと手を叩く。あれは神を呼び起こしているんです。ですから、八百万の神のひとりが「じゃあ私が行こう」と出てきてくれる。これは神様オン・デマンドなんですね。今の行いを神が見ていて、だから将来どうなると言うのではなくて、その時に鐘を鳴らせば神様が来てくれる。日本人はお祭りが好きですね。お祭りというのは山から神を呼び起こす。それがお祭りです。そしてお祭りが終わるとみんなシュンと普通の生活に戻る。だから時間軸の因果関係を考えて何かをするということに慣れていないのかなあ、などと思います。

しかし、先々週、一回目の大雪の時に奈良に行く機会があって、そこで奈良型の寄付文化という面白いトークセッションに参加しました。そこでトークセッションのお相手であった中村元市長の問い掛けにヒントをいただいたのです。奈良の春日大社は平成 27 年、28 年に 20 年ごとに社殿を立て替える第 60 次式年造替を迎えます。そこで市長がおっしゃったのは 20 年に 1 回寄付をするのではなく、我々が長期投資でやっているような積立、毎月少しずつ 20 年後のために寄付を積み立てていく。そのようなモデルは考えられませんかねと聞かれたんです。私もそれは面白いなと思いました。何故かと言うと、日本人の中では西洋的な因果関係の意識が乏しいかもしれませんが、周期性とか、あるいは季節性というのが日本人の文化として根付いている。ですから、寄付とか長期投資というものを西欧的なコンテキストの中で広めようとするのではなく、もともと日本人が持っているそのような周期性とか季節性というところに落とし込むと案外すんなりと受け入れてもらえるかも知れない。文化として根付くかも知れない。そのようなヒントをいただいたので、これから皆様も一緒に考えていただければ嬉しいと思います。

以上で私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

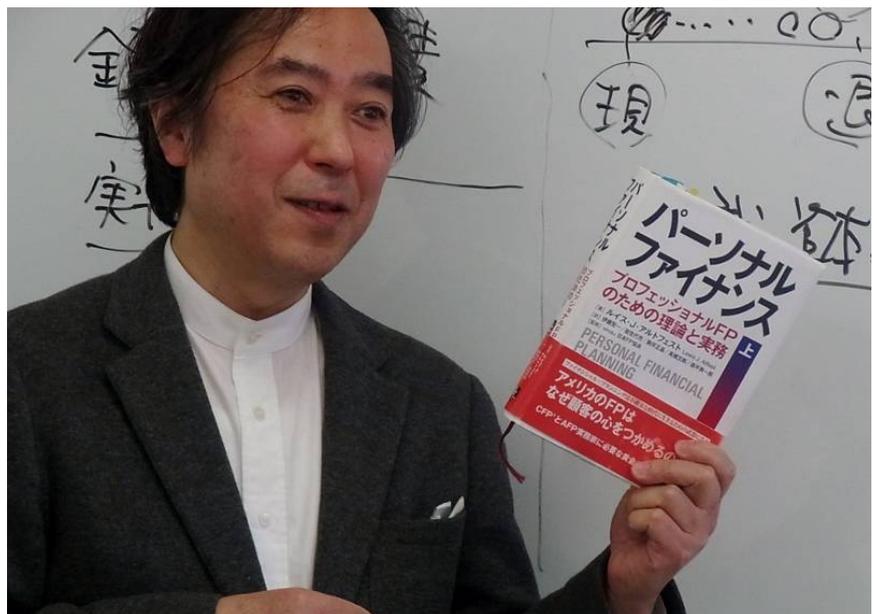


### I-OWA マンスリー・セミナー講演 「統合ポートフォリオ管理の手法と資本ニーズ分析」

講演:伊藤 宏一  
レポーター:川元 由喜子

ちょっと見たところ難しそうなタイトルですが、個人が自分の生活設計に基づいて資産運用をしていく上で大変有効な考え方で、日本では欠けている部分でもあります。これについて、アメリカで「パーソナル・ファイナンス」(アルトフェスト著)という良い本が出たので、この度、翻訳しました。お金だけではなく、それも含めて人生を豊かにしていくためにどうしたらいいか、という視点で書いてある、非常に珍しい本です。

著者のアルトフェストはパーソナル・ファイナンスを、「個人がキャッシュフローを如何に生み出して自分の家計運営を支え、良い暮らし(well-being)をするか考える研究」と言います。Well-beingには主観的な満足感を意味する「幸福」だけではなく、客観的な条件、例えば水が飲める、社会的な貧困が無い、戦争が無い、なども含まれるのですが、そうした広い意味の良い状態でずっと生きていけることが目的なのです。



家計のファイナンスも、企業と同じように考えます。まずは、日常的な財務活動。その主要な要素は、仕事や投資によって収益を生み出す活動、固定費、そして自由に使えるお金です。固定費を把握し、自由に使えるお金をどうやって増やしていくのが課題です。二番目に重要なのは、資本的支出です。消費の中身を、飲食などによりなくなってしまふものと、出費の効果が一年以上先に及ぶようなものに、きちんと分ける必要があるのです。例えば住宅や教育支出など、将来にわたって役



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

に立つものが資本的支出です。そして三番目が、借り入れです。

家計も企業のように年一回、収入と支出を記した損益計算書と、資産・負債を記したバランスシートを作り、決算を行うべきでしょう。バランスシートの左の資産から、右の負債を引いた差額が純資産で、Net worth といいます。Net worth の大きい人がお金持ち、High net worth というわけですが、お金持ちになるというのは、この部分をいかに増やすか、という話なのです。

バランスシートの資産には、金融資産と実物資産がありますが、家計の場合はもう一つ、人的資産があります。体が資本だとよく言いますが、自分自身も働けばキャッシュを生むわけです。それを現在価値で表して人的資産とします。何か行動する時には、この 3 つの資産の組み合わせと、負債とのバランスをとって意思決定をしましょう、というのが「統合ポートフォリオ管理」という考え方なのです。

ポートフォリオというと、リスクはどれくらい取れるかといった情報を基に、債券と株式の割合が云々、という話になるのが普通です。ところがそれは金融資産だけのポートフォリオです。住宅などの実物資産も、職業や相続関係などの人的資産も含めて、全体のバランスを考えることが重要です。

講演ではこのほか、財務分析の手法を用いた家計診断や、退職資本ニーズとそれを充たすための家計の運用についても、具体的な事例やシミュレーションを用いて、詳しく解説していただきました。



### I-OWA マンスリー・セミナーより 「金融資産、人的資産を考える」

対談:伊藤 宏一 vs. 岡本 和久

レポーター:赤堀 薫里

伊藤 日本では、投資の世界を特殊なものだと考えています。イギリスでは 2000 年に出来た金融サービス市場法の中に、保険・貯蓄・運用・ローンも全て包括的に入れています。そして、そのサービスを受ける人を、消費者であるとしていますが、投資家という言葉は入っていません。つまり消費者は、投資もするし、保険も買い、貯蓄もしてローンもするというように、普通のことの中に投資も入るわけです。ところが日本の場合は、金融商品取引法があり、金融商品取引法は、証券取引法からきていますから、その金融商品という言葉がイコール証券です。

金融商品取引法の中に入ると、機関投資家、プロ投資家と一般投資家という言葉は出てきますが、消費者という言葉は出てこないわけです。保険業法や銀行業法等、今まであった業法はそのままあり、リスクを取る商品だけ金融商品取引法の中に入ってしまい、分断されている気がします。最近、僕が思うのは、個人投資家という言い方をなるべく言わないで、普通の消費者が投資もするという言い方が、ごく普通でいいのではないかと思います。法律のたてつけも、既存のものを全部壊して整理し直した方がいいのでしょうか。金融商品イコール証券取引で、特にデリバティブ等もいろいろ入ってきてしまうと、機関投資家メインの、供給サイドの意向が強く反映されている今の法律のたてつけが、問題かなと思います。

もう一つ、日本の場合、金融教育が学校でしっかりされていないので、ごく普通の常識だと考えられているインフレ率や、投資収益率とか、複利という言葉もその意味も知らないわけです。金融広報中央委員会の調査によると、日本人で複利を理解している人は全体の 3 割くらいなんですね。自己責任とはいえ、自分で考えずお任せになってしまいます。お金というと、お金だけに目がくらむような話になり、一瞬にして儲けたいという投機的なギラギラとした気持ちになってしまうので、そこを変えないといけないわけです。

ファイナンシャルプランナーの人達は、出来るだけ中立のプロの能力を持った人達が増えて、半分は教育するのだという気持ちを持ち、それからコンサルティングをしていくというように成長していかなければいけないかなと思います。ところが今は、就職も厳しいので、資



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

格取得するところに力が行き、本物のコミュニケーション能力といった、カウンセリングやコーチングも含めた能力を磨くことが弱いと思います。

アメリカだと大学に専門の学部があります。僕がこの間、行ったテキサス・テック大学には、パーソナル・ファイナンス学部があり、学生が4年間勉強しています。アメリカのFPがリタイア世代に入ってきているので、後継者を大学が一生懸命養成しているんですね。アメリカのFPAの大会に行くと、学生のプレゼンテーションコンクールがあり、全米で10校位選ばれ、3人位がチームになって、学生がプロのFPの前でプレゼンテーションをして、どのプレゼンが一番いいのか競うわけです。日本の大学の学生にはそんなことはできない。そんな水準ではないですね。非常に差が大きいです。それを引き上げることは必要かなという気持ちを持っています。とりあえず『パーソナル・ファイナンス』というような本を読んで勉強してほしいですね。

岡本 日本の場合、投資に対するイメージがあまりにもマイナスですね。本来は長期投資や資産運用は、自分の生活の中で絶対必要になってくるものですが、今までは国や会社に頼ればなんとかなるという思いで来てしまっていた。実はどうにもならないのですけれどね。今はちょっと苦しいけど、いつかまた昔に戻るのではないかという淡い期待を抱いて走ってしまっている。自分の人生を支えるという目的意識のない投資は、単なる投機ですよ。競馬や競輪、まあ競馬や競輪は少しは分析的要素が入ってくると思いますが、パチンコ、ルーレットとか、さいころの目を当てるとか、そういった全く偶然性に賭けるたぐいのものでしょう。当然、学校の中では教えないですよ。今のままでいけば、学校の授業の中でパチンコの勝ち方を教えるようになってきたら、投資の教育も始まるようになっていくかもしれない(笑)。その辺の概念を変えていき、投資は自分にとって価値を生むものだということが実感できるようになると、アドバイスに対してフィーを払うことにもなっていくのではないのでしょうか。今だと、投資イコール何か儲かるものを教えてくれるものだという発想になってしまっている。課題としては大きいですよ。非常に深刻だと思いますよ。

今回、伊藤さんから聞いた話の中では、退職時点でいくらかの資産が必要なのか、という話がありました。私も2008年に「ウェルスマネジメント・ノートをつくろう」というセミナーを3回シリーズでしたことがあります。退職後の必要金額とそれを補ってくれる個人年金や、公的年金を差引き、その金額の現在価値を求め、その時点でいくら必要かということを出したのです。しかし、その分析はどうしても大雑把なものにしかありません。でも、大雑把であってもしないよりはいい。ある意味それが一番重要な数字ですよ。

伊藤 そこは胆ですよ。これをやらずに増やそうというのはどうでしょうか。いくら必要なのかがわからないと、目標設定ができませんよね。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 退職時点で必要な金額を求める際に、年金に関しては、ある程度、掛目をつけて考えておかないといけませんよね。退職時点のバランスシートの資産側の配分をどう考えるのか、という問題がありますよね。つまり金融資産・実物資産・人的資産の最適化をどういう手法で考えるのか。人的資産はそこで退職するのであれば、ほぼゼロとなっている筈ですよ。実物資産が大きければ、家を小さな家に移り住んで、そこで資金を捻出してそれを金融資産化していく。アメリカではこうして家を小さくしながら退職後の資金を補うことも結構、多いようです。金融資産をどのように構成すればいいのか、それは退職時点でいくら保有しているかにも依存します。リスク資産を持てば当然、資産が減る可能性があります。退職時点であまり高いリスクをとれない。それでは足りない。すると今度は、退職後の生活費をどう下げるのかという話になっていきます。その辺の全体の体系化が、もっと単純でわかるようにしておかないといけないのではないかと思いますね。そこが抜け落ちて、3000万円必要だ、5000万円必要だというのはどうでしょうね。

伊藤 人的資産は、現役時代には、キャッシュフローを生み出す人的資産というコンセプトですけど、退職後はそこに、健康という資産がちゃんとあるのかとか、あるいは、ソーシャルキャピタル、社会的にどれだけ人とのつながりがあるのかということも非常に重要な資産の要素になります。そういうのを入れて人的資産の中身を考えた方がいいですね。例えば、一つ人に教えられるような趣味があれば、それはキャッシュフローが生み出すことがあると思います。

もう一つ、今の日本人の生活水準、生活スタイルそのものがハイレベルになり過ぎていますね。世界中が同じ状態になると地球はパンクします。中国では大量の車が売られています。現段階ですでにPM2.5が問題になっているのに、中国が日本と同じくらいの自動車の普及率になったら、どうなるのでしょうか。トヨタが1000万台売れたと言っていますが、その分だけCO2が排出されるのかなと思いますよね。

やっぱりライフスタイルを変えないといけないでしょう。レベルを低くするとか、我慢するとかではなく、例えば、住宅も余っているのだからみんなを使い回しをするとか、アメリカではカー・シェアリング会社がいっぱいありますが、今はインターネットでどこからどこまで歩いて、どこから電車に乗って、ここからは自転車を借りて、カー・シェアリングをするのはどこどことする、という組み合わせが実はインターネットで出来るようになったんですね。結果的にはコストも低くなりますし、低炭素にもなります。

岡本 今日は多岐にわたり、いろいろありがとうございました。



### 中国がわかるシリーズ19

#### 再統一への動き(前)

ライフネット生命株式会社

代表取締役会長兼 CEO、出口治明

[北]魏では、孝文帝の跡を継いだ宣武帝(499~515)の時代に、首都、洛陽が繁栄を極めました。1 万戸を超える外国人が住み着き、宣武帝の霊皇后が創建した永寧寺のあまりの神々しさに、海路、南インドからやってきた仏僧、菩提達磨(少林寺に入り、面壁座禅をして、中国の禪祖となった人です。わが国では、「だるまさん」として知られています)は、幾日も合掌を続けたと伝えられています。しかし、急速な漢化政策から疎外された遊牧民の不満は高まりつつあったのです。

江南では、502 年、梁の武帝が即位し、寒人を使って貴族を抑圧した齊はわずか 20 年余りで滅亡しました。武帝の半世紀近い治世は、南朝の黄金時代と云われていますが(首都、建康の人口は 100 万人に達したとの説もあります)、それは北朝の内乱や分裂のお陰で目立った戦乱がなく、また、武帝が名門貴族を重用して寛容な政治に努めたからでもあるのでしょうか(自由な雰囲気の中で、囲碁や樗蒲などの賭博も、また、空前の活況を呈しました)。稀代の崇仏皇帝として名高い武帝は、仏教に深く帰依し、自らを何度も仏教寺院に捨身しました。その度に、政府は財貨を積み上げ、皇帝を買い戻さなければならなかったのです。武帝は、仏教に関わる著述も多く、当代一流の知識人でもありました。その血を受け継いだ長子、昭明太子は、古今の優れた詩文を集めた「文選」を編集し、後世に大きな影響を与えました。わが国では、17 条憲法や万葉集にも、文選の影響が見られるとされています。

507 年、倭国の大和政権で、王統が変わりました。すなわち、越前から新しい大王(継体)が、大和に迎えられたのです。528 年には、筑紫の磐井が大和軍に敗死しました。これによって、九州の勢力は、大和にほぼ統合されたと考えられています。なお、磐井は新羅と通じていた節があり、大和と九州の争いは、(韓半島と密接に絡んでおり)倭国の国内問題だけでは片付けられないと考えられています。

523 年、[北]魏で、六鎮の乱(~530)が起きました。[北]魏は、建国時に、北方の守りを固めるべく、有力豪族を辺境 6 箇所(武川 6 鎮)に鎮民として送り込んでいましたが、漢化政策の中で六



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

鎮の特権は次々と奪われ、不満が鬱積していました。この内乱を契機に[北]魏は衰亡し、534年、ともに武川 6 鎮出身の実力者の高歡(東魏)と宇文泰(西魏)が、それぞれ帝室を担いで、[北]魏は東西に分裂したのです。当初は、鮮卑の故地に近い東魏が実力で圧倒していました。実権を持つ、高氏、宇文氏は、550年、高洋が齊([北]齊)を、557年、宇文覚が周([北]周)を建国し、魏はここに滅亡することになりました。なお、550年頃、西魏では、府兵制が実施されました。これは、均田制と対を成す兵農一致の制度であり、隋唐帝国に継承されることとなります。また 544年頃、「齊民要術」(最古の農業百貨全書、31種のお酒の造り方まで述べられています)が成立しています。6世紀の半ば頃、400年続いた長い寒冷期が終わり、中国の気候は温暖化して農業生産力が上昇に転じました。要するに、中国統一への舞台が整えられたのです。

南朝では、武帝の晩年の 548年に、東魏からの降将、侯景が反乱を起こして建康は荒れ果て(江陵に臨時首都を移転)、梁はこれをきっかけに瓦解の道を進むこととなります。554年には、西魏によって江陵が陥落し、百官が関中に拉致されました。557年には、南朝最後の政権、陳朝が成立しました。なお、陳朝は、北方からの移住者ではなく、江南土着の武人(陳霸先)が建国した南朝初めての王朝です。



### I-OWA マンスリー・セミナーより 「ゼロ歳からの経済学」

講演: 岡本 和久

レポーター: 川元 由喜子

経済学の基本中の基本は、世の中には皆が欲しいものを満足させられるだけの十分な資源が無い、言い換えれば、資源に希少性があるということです。経済学が「希少性の学問」といわれる所以です。希少性あるがゆえに、「トレードオフ」の関係が生じ、それが恒常的であるため、人生は選択の連続となるのです。あっちもこっちも取るということとはできないわけです。当然、諦めた方は、選択していれば得られるはずだったものが得られなくなるので、そこに機会費用が発生します。

A か B を選択する時、判断の基準になるのが「インセンティブ」です。金銭的には、価格、賃金、利益、補助金といったもの、また税金、手数料、罰金など、マイナスのインセンティブもあります。金銭以外には、楽しさ、気持ち良さ、名誉や不名誉など。そういうインセンティブを基に人間は選択をしているのです。



選択に関わるものとしてはまず、「予算制約線」と「無差別曲線」があります。座標軸

上で、一定の予算を表す直線と、効用が一定になる点を結んだ曲線の接点が、限られた予算内で効用が最大化される最適点であるという理論です。例えば予算 3000 円で、1 杯 600 円のビールと一皿 300 円の枝豆をどう組み合わせで注文するかという話。その意思決定は、1 人、2 人ならば簡単ですが、大きな組織、さらに大きな経済ではどうでしょうか。伝統的な経済であれば昔から伝わる儀礼や慣習など、王が支配する国であれば絶対権力者、社会主義国家では中央当局者による指令配分でした。

これらに対し、市場メカニズムによる配分は、言ってみれば消費行動を通してみんなが選挙しているようなものです。自由度が高く、変化への自然な対応、意思決定の分散化、財やサービスの多



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

様性といった多くの長所があります。一方で生産性の高い資源に報酬が集中する、時として市場の機能不全が起こる、といった問題を抱えながらも、今の経済は市場メカニズムを基本に動いています。

市場で取引される財・サービスは希少資源であって、空気や水といった無料資源とは区別されます。空気や水は、生存に必要な「効用」を持っていますが、それに対して、市場で高額な値が付くダイヤモンドが主に持っているのは「希少性」です。両者併せ持つところに「価値」が生まれます。その希少性を減らすために生産性が必要になり、「特化」「分業」「人的資本」といったことが必要になるのです。

講演ではこの後、需要曲線・供給曲線を通じた価格メカニズムの理論や、市場の競争についての解説が続きました。後半は GDP の考え方に始まり、物価、失業率などのマクロ指標や財政収支を通して、日本経済の現状について伺いました。最後は、国際貿易の理論について、詳しく解説していただきました。

一つのもので得ようと思ったら、別のものを諦めなければいけない。そのために我慢すること、これは経済学の基本ですが、小さいうちから教わるべきことでもあります。ミルクも欲しいけれどおむつも替えてほしい。でも、どちらかを選択しなければならない。赤ちゃんでもトレードオフに直面しているのです。「ゼロ歳からの」とのタイトルは、そういうわけでした。



### 新連載！資産運用「茶飲み話」(1)

岡本 和久

早いもので証券界に入って43年になりました。オイルショック、貿易摩擦、プラザ合意、80年代のバブル膨張と崩壊、ITバブルと暴落、サブプライム問題、ユーロ問題、世界的な金融危機、まあ、色々とありましたね。でも、何とか生き延びてくることができました。そんな私の茶飲み話、聞いてやってください。



相場が難しいとき、「投機」はしない方がいい。ただ、相場は、いつも難しい

投機というのは偶然性にかけることです。コインの裏表を当てる。サイコロの目を当てる。結果に法則性がなく、結果をコントロールするすべがありません。コインよりは、パチンコ、パチンコよりは競馬と少しずつ分析的要素が増えていきます。

株式「投資」は結果にある程度の法則性があり、結果をある程度、コントロールする方法もあります。なぜなら株式には価値があるからです。株式を保有するということは株式の発行企業を保有することです。つまり、株主は企業の資産のオーナーです。そして、その資産は社会に付加価値をもたらしています。株主が保有する企業の資産は価値を生む資産なのです。ですから、長期的に見れば株価は企業の価値に沿った変動をしています。

しかし、株価の動きは短期になるほどランダム性が高くなります。そのランダムな動きにかけるのが投機です。うまくいっても、失敗しても「運」でしかありません。短期の相場動向は誰にもわからない。これはいつも真実です。つまり、相場の短期見通しはいつも難しい。退職後を支える運用資金をもって、荒波のなかに飛び込み、あえて波乗りをする必要はないのではないのでしょうか？

働くということは、人的資産を金融資産に変換する作業である

人生は三つのステージで構成されます。学び、働き、遊びです。

学びの時代というのは生まれてから社会にでて一人前になるまで。就職しても普通、最初の



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

10年ぐらいは丁稚のようなものですから、学びに時代は30歳のはじめくらいまででしょうか。学校で学び、自分の進むべき道を決め、その分野のプロを目指すのがこの時期です。つまり、自分というものの人的資産（あくまで金銭的な価値です）を形成する時期です。

そして、本格的に働きの時代に入ります。家庭を持つ人も多いでしょう。プロとして活躍し、自分が形成してきた人的資産を活用し、それを金融資産に変換する。金融資産形成期です。この時期は普通、ミドル・エイジと呼ばれます。ミドルの時代、毎月の給料は生活費、住宅費、子どもがいれば養育費や教育費が必要でその上、さらに退職後資金を準備しなければなりません。まさに、「ミドルはつらいよ」です。

そして、定年退職したら今度は遊びの時代です。遊びと言ってもただだと寝ころんでテレビを見ているというのではなく、自分が本当にしたいことを自由にして、世の中に貢献してゆく時期です。このステージでは働きの時代に形成した金融資産を活用します。そして、若い人たちに生きざまをみせてあげる。つまり、次の世代の人的資産形成を行うのです。

こうしてみると人的資産と金融資産の、形成と活用によって人生が出来上がっていることがわかります。そして、そのサイクルは世代を超えて続いていくのです。

資産運用とは将来の生活リスクを、コントロール可能な、いまの投資リスクに変換することである

退職後の生活が不安。だから資産運用が必要と言われるけど、やっぱりリスクのある投資は値下がりが心配。老後が不安、でも投資も不安、しかし、預金だけで良いのかこれも不安。これが本音でしょう。だからと言って何もしないのは退職後の生活リスクをそのまま放置しているだけです。

資産運用というのは、将来の生活リスクを、投資のリスクに変換することなのです。投資のリスクは、完全にではないにしても、ある程度、コントロールできます。適切な資産配分に基づきグローバルに十分分散されたポートフォリオを長期で保有する。そして、できるだけコストの安い投資対象を選ぶ。

何もしなければ退職後の生活リスクがそのまま残ります。投資に伴うリスクを理解することで、目先の投資リスクに対する耐久力がつきます。そして、それが老後の生活リスクを削減する方法でもあるのです。資産運用とは将来の生活リスクを、現在のコントロール可能な投資リスクに変換することなのです。

# ＜モデルポートフォリオ：2014年3月末の運用状況＞

単位：％

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月～ 171万円
4資産型	積極型	0.67	21.96	13.98	4.99	16.44	8.63	50.56	42.20	50.73
	成長型	0.60	16.57	10.35	4.64	11.63	6.94	37.87	35.40	45.45
	安定型	0.53	11.29	6.62	4.06	7.29	5.23	25.85	27.90	38.64
2資産型	積極型	1.28	24.78	16.55	6.99	18.75	11.67	56.95	54.28	67.74
	成長型	1.11	19.53	12.16	6.12	13.74	9.35	43.89	44.51	59.05
	安定型	0.93	14.40	7.71	5.00	9.34	7.05	31.52	34.00	48.53

\* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。  
 積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2013年3月末に1万円投資資金を積み立て始め、2014年2月末の投資資金までとする(2014年3月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。  
 出所：イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール( <https://www.matonavi.jp/inquiry> )にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

## ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
成長型	25%	25%	25%	25%		
安定型	10%	10%	40%	40%		
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

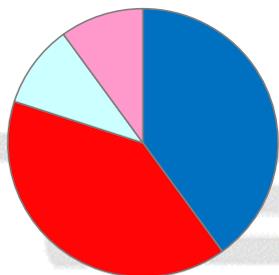
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。  
**特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。**

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

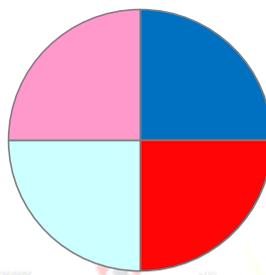
### 4資産

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: Citi WGBI (除く日本)

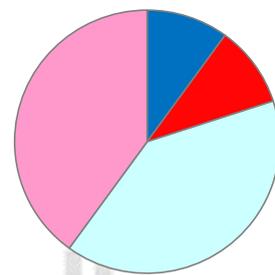
#### 積極型



#### 成長型



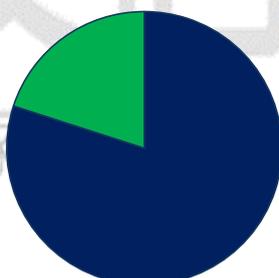
#### 安定型



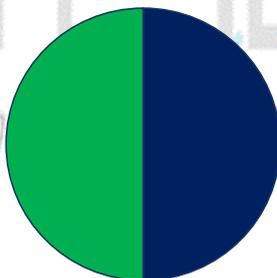
### 2資産

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: Citi WGBI (含む日本)

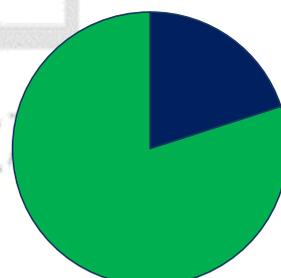
#### 積極型



#### 成長型



#### 安定型



## <純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2014年3月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。  
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストライフ」のその他の記事はこちらをご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

今回順位	前回(13年12月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2014年3月末		イボットソン分類
				1ヵ月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~171万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~171万円	純資産(億円)	
1	1	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	-0.27	19.05	12.10	1.16	20.58	3.88	41.08	23.73	25.43	12.47	84.65	148.47	214.49	3,416.3	15,102	国内株式・大型ブレンド型
2	2	さわかみ	さわかみファンド	-0.16	24.41	12.15	3.21	19.74	7.88	40.88	28.56	41.45	12.95	84.53	154.27	241.88	2,852.5	17,172	国内株式・大型ブレンド型
3	3	日興AM	インデックスファンド225	0.59	21.00	14.29	3.47	21.46	5.41	50.47	37.37	39.95	12.65	90.28	164.84	239.31	2,314.3	4,065	国内株式・大型成長型
4	-	三井住友AM	日興・新経済成長国エクイティ・ファンド(EG5)	7.59	-11.23	-	-	-	-1.47	-	-	-	11.82	-	-	-	1,904.0	8,889	外国株式・新興国型(複数国)
5	4	みずほ投信	MHAM株式インデックスファンド225	0.56	20.96	14.19	3.41	21.38	5.41	50.36	36.92	39.19	12.65	90.22	164.31	238.02	1,586.0	2,713	国内株式・大型成長型
6	8	DIAM	日経225ノーロードオープン	0.51	20.34	13.80	3.07	21.37	5.03	48.62	34.59	36.04	12.60	89.17	161.51	232.63	1,493.1	9,882	国内株式・大型成長型
7	6	JPモルガン	JPMザ・ジャパン	-1.94	3.10	24.90	12.82	31.39	-7.64	82.17	113.12	210.44	11.08	109.30	255.75	530.85	1,226.3	39,541	国内株式・小型割安型
8	7	ニッセイAM	ニッセイ/パトナム・インカムオープン	0.82	9.56	8.18	3.46	9.73	4.70	31.45	31.13	35.66	12.56	78.87	157.36	231.98	1,201.1	6,753	外国債券・米国型
9	5	三菱UFJ投信	三菱UFJ Jリートオープン(3ヵ月決算型)	-2.48	-6.40	19.03	-	-	2.86	65.78	-	-	12.34	99.47	-	-	1,190.6	6,165	国内REIT
10	11	三菱UFJ投信	三菱UFJ インデックス225オープン	0.57	21.30	14.38	3.59	21.46	5.56	50.96	38.12	40.99	12.67	90.58	165.75	241.09	1,033.5	9,307	国内株式・大型成長型
11	9	日興AM	GW7つの卵	0.16	18.18	11.61	3.69	14.15	7.38	39.36	31.01	-	12.89	83.62	157.21	-	1,021.8	10,211	アセットアロケーション・積極型
12	10	野村AM	ノムラ日本株戦略ファンド《Big Project-N》	-1.02	17.49	12.31	1.81	19.83	2.95	43.18	23.65	-	12.35	85.91	148.38	-	956.2	7,021	国内株式・大型成長型
13	12	三井住友AM	トヨタグループ株式ファンド	-0.02	22.33	17.44	6.49	26.91	2.16	68.51	55.59	-	12.26	101.11	186.70	-	856.9	18,773	国内株式・地域/グループ型
14	13	JPモルガン	JPM中小型株オープン	-1.54	28.68	14.21	-0.23	22.69	6.27	53.19	23.31	25.10	12.75	91.91	147.97	213.92	833.6	8,925	国内株式・小型成長型
15	19	大和投信	ストック インデックス ファンド225	0.56	21.00	14.26	3.41	21.44	5.40	50.34	37.03	39.34	12.65	90.20	164.44	238.26	805.8	6,678	国内株式・大型成長型
16	14	野村AM	グローバル・ハイインカム・ストック・ファンド	1.79	19.96	16.45	5.20	18.03	9.20	54.57	43.26	-	13.10	92.74	171.91	-	787.1	8,224	外国株式・世界型
17	38	アムンディ	リソナ・日経225オープン	0.54	20.44	13.91	3.14	21.36	5.09	49.07	35.23	36.86	12.61	89.44	162.27	234.03	746.3	9,075	国内株式・大型成長型
18	15	フィデリティ投信	フィデリティ・ジャパン・オープン	-0.29	18.88	12.12	1.15	20.66	3.82	41.11	23.74	25.56	12.46	84.67	148.48	214.70	731.9	10,597	国内株式・大型ブレンド型
19	20	HSBC投信	HSBC インド オープン	13.45	7.96	12.31	-	-	16.73	9.92	-	-	14.01	65.95	-	-	704.7	14,807	外国株式・インド型
20	22	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	0.94	18.48	10.68	-	-	8.15	40.63	-	-	12.98	84.38	-	-	701.8	11,527	アセットアロケーション・積極型

対象は追加型株式投資信託のうち2014年3月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF・DC・SMAなど専用投資信託を除く)。

積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2013年3月末に1万円で積み立てを開始し、2014年2月末投資分までの2014年3月末における運用成果とする(2014年3月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。